



HOKKAIDO  
UNIVERSITY



～講演会のご案内～



東京大学大学院医学研究科の畠山昌則先生による講演会を企画いたしました。畠山先生は、『ヘリコバクター・ピロリ(ピロリ菌)感染による胃発がん分子機構の解明』において、多くの顕著な業績を上げておられます。先生の最新の研究について、興味深いお話が伺えるものと思います。多数のご参加をお待ちしております。

演題: “ピロリ菌の発がん活性を規定する分子多型とその構造基盤”

講師: **畠山昌則 教授**  
(東京大学大学院医学研究科)



日時: **2018年11月29日(木)15:00～16:00**

場所: **北海道大学理学部本館 N-308 室**

共催: 北海道大学大学院総合化学院, フロンティア化学教育研究センター  
北海道大学物質科学フロンティアを開拓する Ambitious リーダープログラム, 日本生化学会北海道支部, 生命分子化学セミナー

要旨:

ピロリ菌感染は胃がん発症に決定的に重要な役割を担う。胃上皮細胞内に侵入したピロリ菌がんタンパク質 CagA は異常な足場タンパク質として機能し細胞のがん化を促す。CagA の足場タンパク機能を担う EPIYA モチーフは発がん性ホスファターゼ SHP2 を異常活性化し、CM モチーフは極性制御キナーゼ PAR1 と結合し細胞間相互作用を破壊する。個々のピロリ菌 CagA 分子種間には、これらのモチーフの数ならびに構成アミノ酸配列に多型が存在し、その多型が胃がん発症と密接にリンクすることが明らかになってきた。本講演では、CagA 分子多型と発がん活性強度を繋ぐ構造生物学的基盤を解説する。

連絡先: 北海道大学大学院理学研究院化学部門 生物化学研究室  
坂口 和靖 (011-706-2698)